３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp

No.471-472

間伐材の整理が進む地球環境部

【定例活動報告】小原本陣の森

定例活動日の前日、JFIKの方11名と石老山登山をしてきた。続いてプレジャーフォレスト経由嵐山の予定だったが、あまりにも暑いので（市内37.5度）石老山を下ったところで、渡し舟に乗って相模湖まで渡り涼を得たところだ。今日も負けじと暑さが残る。6月30日に関東が梅雨明けをしたのは史上最速とのことだ。暑い中だが、フォレストノバや地球環境部の中高生も参加された。

我々は、川田、石井、角田、小林で参加、午前中は畑に暫く行っていないので草むしりかたがたジャガイモ堀り、キュウリ、枝豆、シソ、キャベツなどを収穫した。

午後からは嵐山に向かい、基地の三画の木組みの解体作業を行った。前回の危険を参考に安全作業を試みた。木組みだけにかなりの量の釘やワイヤーであり、思った以上に大変な作業となったが4時に何とか終了することが出来た。解

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

体した残材は、石井さんのやられている大月の農園で土留めに使う材料として再利用されることになったので、釘の処理も大変だった。

　この様に木材も再利用されるとこの後、2～30年は役割を果たし、合わせて50年間私たちのために働いてくれたことになる訳です。

　いよいよ緑のダムの象徴であった三角小屋が無くなると、残りの小屋は組立式なので解体は早いことだろう。夏休みには学生さん達が林業研修インターンシップの時期だが、8月の
計画を余談なく行い満足される活動を計画立案する必要がある大事な時を迎える。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

　夏も本番に入り、なかなか草刈りや間伐といったがっつりとした作業がしづらくなってきた。特に異常気象とも言えるこの夏の暑さで世間からの熱中症対策への目も厳しい。若い、といっても逆に冷房に使っていて、体も未発達な彼らの方が逆に熱中症は怖い。客観的なデータ（気温や湿度）をもとに活動を判断したいという思いから環境省なども提唱しているWBGT暑さ指数を日射、気温、湿度から割り出してくれるいわば高性能な温度計を用意して、活動に臨んだ。とはいえ、まずは活動内容から、ということで、今回は割とお寺から近いが境界線が怪しいラインがあったのでそこの解読に当たった。これまで幾度となく通った道だが、GPSの軌跡を見ても、地図を見ても、植生を見てもどうもしっくりこない。割としっかりとした作業道があるのだが、これが公図の境目と一致しない。しかも植生に合わせて以前に作業した形跡があるのでなおのことである。測量開始地点には大きなコンクリの杭があり、地主さん同士の境目であることは間違いない。ここから公図の通りに、と思ったのだが、コピーしたときに縮尺がおかしくなってしまったようで、公図通りに進むととんでもないところに出てしまう。そこで、杭を基準に作業道を測ってしまい、尾根まで出るデータを取り、それを後からゆっくり公図と比較すればいい作戦に変更。尾根はまた違う方との境界線になっているので、それはそれでわかりやすい。そして、結果。やはり作業道＝植生やこれまでの施業跡とは一致しない。こういう結果もいつも通りかもしれない。後日、長福寺の住職の野呂さんとこれまでの活動報告会を行ったのでそこで報告させていただき、先方の地主さんも交えて確認したいと申し出ることにした。

　午後からは沢沿いに入る道にある丸太橋が腐りかけていたので、これまで切った木を運び込んでの修復、舗装された道から見える範囲までの草刈り。結局なんだかんだいつも通りがっつり作業を行ってしまった１日となった。

宮村　連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

本日は桜井先生とお孫さんが嵐山に来られ、学生さん向けに体験学習授業がありました。そこで先生に「木の駅」の活動を書いた本を読むように渡されました。

NPO木の駅は丹羽代表のもと「軽トラとチェンソーで晩酌を」の題目で自伐林業を広め今や全国に40か所の連携がある興味のある林業ボランティア団体である。

ボランティアと言っても、地域通貨や地域の自治体との連携で森林環境税をうまく利用して事業性がベースとなっているところが進んでいると思う。

「木の駅」の中に小口丸太を林地から引き出す為に活用されているのがポータブルウインチである。以前嵐山に来て頂いてご説明頂いたマッシュプーリーの簡易版である。

基地移転に伴う小屋内部の整理整頓中に現れたのが「ポータブルウインチPW350」である。何故か緑のダムも所有していたのだ。早速修理をして残材の運びだしに活用したい。今度の林地残材の利活用と地域への貢献の中で、自伐林業への傾注がとても大事になる。（報告：小林　照夫）

地球環境部はこれまで間伐してきた木の整理を行うことにした。今回は三鷹二中、高井戸中、とそれらのOBとその高校生の同級生とその弟と東海大望星高校と、学芸大小金井中という、もうカオスに近いようなメンバーとなり、人数も私と粟田さんを入れると２０名近くとなった。これはもう、間伐材の整理しかないのである。（木を運ぶのが大変だからである）基本的にメインに置いてきた林内置き場をまず整理し、さらに数カ所に点在するところからそのメインの場所に集めればミッション完了である。点在する数カ所は数カ所あるが、数本ずつしか積まれていないので、この後の隙間時間を使えばなんとかなるはずである。よって問題はメインの置き場である。数年前から取り組んできた場所なので、下の方はどうやら腐っていたり、虫が入ってしまっているように見える。しかし、結果からいうとこりゃダメだ、というのはほんの数本でほとんどは問題なく乾燥が進んでいた。これまで4mを基準に、ということだったが、軽トラで運んで何かに使うのが実情だし、自伐林業的な視点でも2m+アルファで十分だろうと、これまでのものを切り直し、積み直しが今回の主なミッション。とはいえ、出自の異なる中高生、なかなか打ち解けず、学校ごとに作業をしていて今一つ作業が捗らない。まずは先月切って倒しただけだった２本を学芸大小金井中の生徒に任せる（ただし大半が初めて森に来た生徒）、その間に手練れの高校生以上で作業ペースを作るという作戦にした。積み直しながらやってみたが本数が意外に多く、すぐ傍に新貯木場を２箇所作り、２mに切る、運ぶ、を分担した。２箇所も太い、細いに分け、小金井中の生徒も合流した。今回は玉切りがメインなので、それなりの数のZORIN（マスターソードと彼らが呼ぶ大きなノコギリ）で進めた。先日の修学旅行で、京都の仏像修復の方に大きなノコギリを見せてもらっていたのだがそれに匹敵するマスターソード。これが当たったのか、次々と切って行く。私も適宜チェーンソーで切り足していってメインの林内置き場は見事にきれいになった。あとは運び出すだけ、、、だが、だけ、という言葉が重い。（報告：宮村　連理）

桜井尚武の森のコラム

「クリタマバチ（*Dryocosmus kuriphilus*）」

図1．クリ20090920嵐山

図2．クリの虫癭20070503嵐山

クリ(*Castanea crenata*)は秋の味覚の代表（図1）ですが、材木としても重要です。材は硬く重くて木目が綺麗なので家具材や器具用材として多く使われています。また、タンニンが豊富で腐りにくいため土木用材や家屋の土台にも重用されました。約4,500年前に作られたといわれる三内丸山遺跡の建造物の一部が残っていてクリ材だったことが解ったということはよく知られています。また、アメリカや日本では鉄道の枕木として使われていて、クリ材は沢山あったことがわかります。

嵐山の定例会の集合場所にあるクリの枝に、5月の初め頃奇妙な瘤が見られます（図2）。クリタマバチという寄生蜂の虫癭（ちゅうえい）です。ゴール(gall)ともいいます。これはクリタマバチが前年の梅雨明け頃に葉柄基部の腋芽内に産卵してそのまま越冬し、翌春の成長期に大きく瘤状に膨れさせたものだそうです。この瘤の中で幼虫が成長して羽化し脱出した後は、この部分から先がほぼ枯れます（図3、4）。ですから、この寄生蜂が多くの枝に産卵した木はその木自体が枯れてしまうこともあります。この被害は昭和16(1941)年に岡山のクリ栽培地に発生して全国に広まったことが解っているそうで、寄生蜂はクリの苗木に付いて中国から侵入したと考えられています。日本各地に豊富にあった野生のクリは壊滅的被害を受けました。その後この寄生蜂に抵抗性の系統が導入されてクリ産業は回復しましたが、1975年頃からこれら抵抗性系統にも寄生できるクリタマバチが出現しているそうです。現在、嵐山でも結構目立って虫癭が見られるのはその結果のようです。

桜井　尚武（本会、会員）

図3．羽化後の虫癭20070715嵐山

図4．羽化後のクリの枝20070715嵐山

【若者の森づくり】地球環境部

私たちは今回、積水ハウスのイベントに緑のダム北相模として出展した。キッズスペースに積み木を出す活動だったが、午前中はなかなか人が集まらなかった。これからの活動では、子どもを呼び込むためにどのような工夫が必要か考えて行くべきだと思う。

子どもを呼び込むには、まず環境を整えることが重要だと感じた。初めは遊び場を全てブロックで区切っていた。しかし、それでは子どもは入りにくく結果的に集まらなくなっていたのだ。そこで、一つブロックを移動させ入り口の代わりになるようなものを作った。すると、徐々に遊びに来る子どもが増えてきた。

あくまでも子どもたちは私たちと同じ目線ではなく、もっと低い目線で、周りを見ているのだ。私たちはこれらを考慮し、動かなければならない。また、それに気づき臨機応変に動く必要もある。子どもと触れ合う際にも同じことが言えるだろう

今回主体的にイベントに参加したのは初めてだったが、コミュニケーション能力、状況判断能力共に未熟だったためその分得られたことも多かった。次の機会には、もっと多くのことを学び取り、活動に貢献できる力を身につけたい。

阿部　華子（東京学芸大学附属小金井中学校３年）

今回私達が普段行っている活動によってできる積み木を使うことで、結果的に活動に興味をもってくれた方も現れ、このようなイベントに参加することも重要なのだとわかった。しかし、積み木の他にも子供たちの興味を惹くものが多く、集まりが悪かった。今後どのようにしてより多くの子供を集めるかを検討すべきだろう。

石塚　千智（東京学芸大学附属小金井中学校３年）

【若者の森づくり】Forest Nova

７月の第１日曜日は、OBの釜谷先輩が活動にいらしてました。今回は、メンバーも少なかったので、宮村先生の地球環境部を手伝う事にしました。具体的な活動としては、長福寺の近くの山の測量と橋の修理を行いました。測量はお寺の所有する山の領地が森林組合の土地と重なっていないかを確認する為に行ったのですが、測量を行っていくうちに地図に描かれている土地と実際の領地がずれている事が判明しました。その日はとりあえず、測量を行った場所に対し杭を打ちました。

休み時間は、釜谷先輩とノバの現状等を話し、アドバイスを受けたり、他の先輩たちの現在について教えていただきました。

後半は、小原の谷の近くの木材を渡した木の橋の修理を行いました。材は、谷奥に置いてあった木材を地球環境部のメンバーと共に運んで腐ったり、古くなっていた材と入れ替えました。

多くの木材が放置されたままだったので、今後はこの材たちを利用する企画を行いたいと感じました。

望月　健一（Forest Nova）

【事務局から】

パタゴニア横浜店で積み木イベントを行います。

前回に続き、同店で８月１１日１１時からキミもツミキマスターになろうを行います。中高生のお兄さんお姉さんが作る見本の積み木を見よう見まねで同じものを作れるだろうか、という企画です。見事にできたキッズにはツミキマスターの称号（つまりはシールですが）を授与いたします。という企画です。パタゴニアの店内を普段はゆっくりと見られないお子様連れのファミリーをターゲットにした企画です。もしかしたらフォレストノバの森の紙芝居も披露されるかもしれません。

恒例の地球環境部合宿を行います。

こちらも恒例の山梨県小菅村での地球環境部合宿を行います。今年度から大学生となった卒業生主体で企画を進め、現地スタッフともやりとりしながら準備を進めています。８月１４日からの３日間、多摩川の源流体験、林業指導、シカをターゲットにした狩猟関係の体験を予定しています。Facebook等で適宜状況を報告していきます。

小原の郷流しそうめん大会を行います。

今年度の神奈川県からの助成を活用した体験学校は２日間、別プログラムとして実施します。初日、８月１８日は小原にて流しそうめん大会、１９日の２日目は嵐山での間伐体験です。小原の流しそうめん大会は朝１０時に小原の郷の集会場に集まっていただき、竹林整備、その後ふれあい広場に移動して流しそうめんセットを作ります。みなさまの参加をぜひお待ちしております。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所